



学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～

令和4年 1月7日 1月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 黒木 健

私がトライしてみた暗記法

校長 黒木 健

新しい年を迎え、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。本日から新年の教育活動が始まり、学校にまた子どもたちの元気な声が戻ってきました。長期休業明けは、学校での生活パターンを取り戻しづらい場面も見受けられますが、落ち着いて学習に取り組むためにも、1日も早く生活のリズムを取り戻せるよう、支援を行ってまいります。さて、今年最初の学校だよりは「私がトライしてみた暗記法」と題して、話をさせていただきます。

先月の学校だよりで、「断片的な知識をもはや学力とは呼べなくなった。」と述べたところですが、前回の話と矛盾するのではないかと思われるかもしれませんが、断片的な知識が100%不要だとも言い切れません。では、どの教科でも完全には無くならない、いわゆる「暗記もの」をいかに首尾よく且つ短時間で片付ければいいのかというのが、今回のテーマです。紙面の関係上、①ストーリーで暗記する、②映像で暗記する、③セットで暗記するの3つを、簡潔にご紹介したいと思います。

まず、①ストーリーで暗記するからです。中学校の国語（文学史）の学習で、作者名は耳にしたことはあっても、その作品名まではよく知らないというような時に、読んだこともない作品名をただ覚えるという作業には、大きな苦痛を伴います。そこで編み出したのが、例えば、白樺派の文豪「志賀直哉」の作品名を覚える際、「大津順吉」と「赤西蠣太」が「清兵衛と瓢箪」を持って「暗夜行路」を「網走まで」行き、「城の崎にて」「小僧の神様」と「和解」したと、無理やり文章を作って暗記する方法です。これだけで8作品を覚えることができます。執筆順を問う設問には対応できませんが、試験終了までの短い間だけ記憶していればよい内容には適した暗記法かもしれません。

次に、②映像で暗記するです。私の場合、これを日本史の暗記ものに導入しました。日本史の教科書の紙面には、おおよそのページに資料や画像などが小さく収められていますが、まずはそれらを強く意識しながら、最初のページからタイトルや太字と合わせて、最後のページまで通読してきます。2回目以降は、確かこのページには、こんな画像や太字があったはずとイメージを膨らませ、核となる箇所にも意識を及ぼしながら、少しずつその暗記範囲を広げていきます。それを繰り返しながら、当初、頭の中でぼんやりしていた映像を、少しずつ鮮明な画像へと解像度を高めていきます。社会科系の科目に応用できる暗記法の一つではないかと思っています。

最後に、③セットで暗記するについてです。断片的な知識もそれ単独では広がりのある知識には飛躍させづらいものの、それら知識をセットで暗記し、且つ頭の中で「グループ化」することで、関連性をもったまとまりある知識へと一段高めていくことができるのではないかと思っています。もし、前述の志賀直哉や白樺派を知ったのであれば、白樺派が活躍した1910年代に日本や世界では何があったのか、例えば、「大正デモクラシー」、「第一次世界大戦」、「パリ講和会議」などとセットで覚えて理解を深めていきます。ある程度、その教科の全体像を理解した後に、威力を発揮する暗記法であると考えます。紙面の関係で多くを語ることはできないのですが、ご家庭でのお子様との話題の一つに加えていただけましたら誠に幸いです。